

令和5年 第1回 定例教育委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年1月23日（月）午後2時00分～
- 2 開催場所 豊見城市役所 4階 第1会議室
- 3 出席者
[委員]
教育長 教育委員3名

[事務局]
教育部長 教育総務課長 学校教育課長 学校施設課長 生涯学習振興課長
文化課長 学校教育課参事
- 4 欠席者 1人
- 5 傍聴人 0人
- 6 教育長の報告の要旨 別添教育長業務報告
- 7 議題及び議事の概要 次のとおり
- 8 議決事項
令和4年度（令和5年度進学予定者）豊見城市育英会奨学金の給与審査について
- 9 教育長又は会議において必要と認める事項

◎ 会議の要旨

教育長	<p>これより第1回定例教育委員会を開催します。</p> <p>それでは、日程第1の会議録署名委員の指名であります。本日の会議録署名委員に宮城委員を指名いたします。よろしくお願ひします。</p> <p>休憩します。</p>
	<p>休 憩 (14時02分)</p> <p>再 開 (14時03分)</p>
教育長	<p>再開します。</p> <p>それでは、日程第2の会期日程についてです。1日としてよろしいでしょうか。</p>
	(「はい」と呼ぶ者あり)
教育長	<p>それでは、会期日程は1日とします。</p> <p>次に本日の議題ですが、お手元に配付しております議事日程に沿って進めてまいります。</p> <p>日程第3の議題に入ります。教育長の業務報告を行います。令和4年12月27日火曜日に、第13回定例教育委員会を行いました。同日、とみぐすく食堂友の会様から育英会へ、豊見城市建設業協会様から人材育成基金へ、それぞれ寄附の贈呈を受けております。年が明けまして1月4日水曜日に仕事始め式。その後、午後、第9回定例校長会を開催しております。1月5日木曜日には新春の集い。6日金曜日には消防本部出初め式。1月8日日曜日には市内中学校それぞれで行われましたはたちの集いに参加しております。1月14日土曜日に3年ぶりに開催されました新春マラソン大会では主催者挨拶を行いました。16日月曜日に豊見城中学校で実施されました数学科授業づくり研修会を参観しております。1月18日水曜日、令和5年第1回南部広域行政組合教育委員会定例会に参加し、1月20日金曜日、うるま市で開催されました沖縄県都市教育長協議会第2回会議にそれぞれ参加してまいりました。</p> <p>そのほかに関しては資料をご確認ください。よろしくお願ひします。</p> <p>続いて、日程第4の承認第1号 令和4年度(令和5年度進学予定者)豊見城市育英会奨学金の給与審査についてと日程第5の同意案第1号 県費負担教職員の懲戒について内申することの審議の前に、この2つの議案には個人情報が含まれておりますので、個人情報保護のため非公開とさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。</p>
	(「はい」と呼ぶ者あり)
教育長	<p>それでは提案どおり非公開ということで進めさせていただきます。傍聴</p>

	者がいないので、そのまま会を進行していきたいと思います。
	(日程第4、日程第5 反訳なし)
教育長	休憩します。
	休 憩 (14時39分) 再 開 (14時40分)
教育長	再開します。 それでは委員の皆さん、全般を通して気になること、確認したいことがございましたら挙手でお願いいたします。定例校長会の資料も配付していることと思いますので、全般的なことについてご意見等ございましたらよろしく願います。はい、宮城委員、どうぞ。
宮城委員	<p>この場でお話しして、直接回答が得られるというふうなことではなくて、情報として共有したいなと思っています。</p> <p>先ほど、下條先生とおとといご一緒したという話をしたんですが、日本語教育についての研修会といいますか、沖縄県が今どのように日本語教育を進めているのか。あるいは他の都道府県は学校現場における日本語教育をどう進めているかというようなところでの研修会というか、情報共有というか、情報交換というか、そういうのが実は琉大のほうでありました。たまたま私は情報をキャッチすることができたので、行こうと思ったきっかけは、豊見城の教育委員会で過去、主事として特別支援教育に関わり、それから教育支援委員会に関わったときに、日本語が話せない子どもがどういう形で情報として教育委員会に来たかということ、特別支援教育のその教育支援委員会への情報として来たんですね。要するに日本語が話せなくてどうしようもないということで、どこにどう手だてを求めようかという学校現場の声だったと思いますが、それが特別支援教育の中の知的ではなくて情緒、その分類は危ういんですけど、その中で出てきたときに、それを教育支援委員会で「それは特別支援教育の分類ではないね」ということでこれは却下をし、学校現場にどうにかできないかと投げかけたんですが、そのとき私もそんなに情報を持ち得ていなくて、日本語教育が豊見城市でどういうふうになっているかとか、どういうふうにしたほうがいいのかという手だてが当時私もできなくて、ただずっと心にわだかまりというか、どうにかできないものかと思いつつ過ごしていた中でのその研修会だったので、これはいい機会だと思って、それにたしか特別教育課程が組めるという、文科省が出しているという情報なども以前聞いたことがあったりしたので、それも含めて研修会に参加しました。</p>

	<p>そしたら豊見城市はそんなに多くないので、事例として発表された神奈川県と福岡県、その事例に匹敵するようなものではないんですけども、何らかの形でそれを見本にできるというところがあるんじゃないかなということを感じてきたんですね。そういう中で今現在、豊見城市で日本語教育を必要としている、要するに両親が外国人であったりとか、あるいは外国で長い間生活をしていて、日本語がなかなかうまく喋れないとかという児童・生徒がどれぐらいいるのかなということと、それに対して教育委員会としての対応をどのようにしたほうがいいのかということでの今後の情報共有として、教育委員の一員として、教育委員会とどうにか連携を組んで、いい方法でできる手だてはないのかなということをし、前向きに進めることができる一つの手だてにならないかなということをつくづくまたあの研修を受けて感じたところだったので、それがもしここで少しでも聞くことができればありがたいかなと思って。急なので、ごめんなさい。きちんとした回答ということではなくて、今の現状みたいなものを少し。</p>
<p>教育長</p>	<p>じゃあ私のほうからいいですか。豊見城中学校に在籍しているときにフィリピン、中国系の女の子がいて、2年生でしたけれども、たまたま自分の息子が日本語教育のライセンスを持っていて、教頭先生のほうから「週に2回ぐらい教えられないか」というところで息子のほうに聞いたら「大丈夫よ」ということで、その子は火曜日と木曜日、授業が終わってから1時間ずつ日本語教育を受けておりました。そういう学校のほうで困り感があるときには、豊中に関してはその情報が来て、対応できる職員というのか、ボランティアですけれども、やってもらうような形で、今も那覇のジャスコの向かいにある日本語教育のライセンスを取れる英語の専門学校がありますけれども、あそこに連絡をすればどうかなと思いますよというところで、今、学校現場ではそういうふうな形で個別にしかできない状況です。実際にやっていたので、2か年間。そういう事例はあります。</p>
<p>下條委員</p>	<p>多分、日本語教育指導員が配置されているのは沖縄県だとうるま市とか、中部だと二十何校ですよ。那覇・南部には、まだそういうシステムがないですよ。でも実際先生がおっしゃるように、すごく学校で困っている子が今もいます。現在います。それで、特に中学校の場合は入試というものの壁がありまして、直近で来て間もない場合というのは、すごく学校の授業についていくことが難しかったりとかで、本当の学力じゃない学力、つまり日本語さえ、言葉が障壁になっているがため</p>

	<p>に学力を発揮できなかつたりとか、学習にアクセスできなかつたりという状態が実はありまして、なので私もその学校に入っているんですけど、タブレットを使用して、この子が学習にアクセスできるように。でもこの子だけだったら、やっぱり自己肯定感が下がるんですね。悪目立ちするので、なのでUDLというか、みんなが使いたい人は使っているような授業をやってくださいというでこと入っているんですけど、このときに、受験なので受験が迫っていて、そうすると前の国では飛び級するほどの学力なので、そういうときは私もずっと進路にいたので、英語の成績をもらって、それで平均点が出せるんじゃないか、内申点が上がるんじゃないかということでお伝えはしたんですけど、そこら辺のこともご存じなかつたりとか、外国語の成績を日本に変えればいだけなので、そういうことも整えていかないといけないのかなとか、いろいろ今感じてはいるんですけど、何か入試のときにすごく小学校もそうだと思うんですけど、入試の不利がすごく残念だなという感じで、今、外国人児童・生徒は書物によりますと、将来就労しないといけないので特別支援学校への進学が増えているんですよ。結局成績が取れないからって、本当の学力じゃないところではかかれている。いろいろな問題があります。</p>
宮城委員	<p>今回、豊見城中学校はそういう情報があって、そういう指導できる方がいて、うまくできたということなんですけど、これを豊見城市全体と見たときには、やっぱり教育委員会として何らかのアクセスがどこかからあったときに、豊見城市ではこういうふうにしていますよという、そういうのが教育委員会としてあったほうが他の小学校、中学校の先生方も動きやすいのかなって。今回、教育長の息子さんがそれを持っていて、同じ豊見城中つながりでということはすごいラッキーだったなというふうに思うんですけど、それがほかの学校にもそういう子どもたちが多少ならぬいるかなと思うので、やっぱり教育委員会としての一つの形みたいなのは何らかの形でつけれないかなって。そしたら、その子たちが来たときにも先生方が安心してその子と関わりが持てるのかなって。そこが一応大事な部分ですね。</p>
下條委員	<p>私もちょっと数字がほしいなと思います。小学生と中学生の人数と国籍等が把握できればありがたいです。</p>
学校教育課長	<p>豊見城で、あまりそういった特殊な例というのは多くはないですね。</p>
宮城委員	<p>多くないですね。</p>
学校教育課長	<p>例えば教育長が言った豊中の例、あと豊崎小学校に対象の子がいるよ</p>

	<p>うですので、うちの学籍のところでは東京都が公表している受け入れる際の言語の翻訳みたいな、冊子みたいなのがあって、それをお渡しはしているところというのと、あとタブレットの機能で翻訳機能が使わせてもらえれば助かるというので、そういった環境整備等、あと携帯でやったほうが早いというところもあったので、校則でその辺の配慮をやっていただくというような対応をしております。</p> <p>先ほど言ったように事例は多くはないんですけども、今後については小学校でJTEの活用というのを、これまでの配置の仕方も見直しながら、その辺も使いながら対応していければなというふうには考えています。</p>
宮城委員	<p>日本語教育というのは普通の国語の教育とも全く違うし、国が違うと色々な文化とか、いろんなのも違ってくるので、そういうのもやはり知りつつ教育をしていくという意味では、すごく重要な立場にある方なのかなど。私は長年国語教員をして退職をしたけれども、日本語教育がすごく叫ばれるようになったことを流れとして知っていたので、自分なりに日本語教育の勉強を1年間やりました。ライセンスとして試験を受けていないので、ライセンスを持っているかと言われればライセンスは持っていないんですけど、でも1年間かけて日本語教育というのはどういうものであるかということも含めて勉強してきたつもりでいるので、そういう意味ではやはり日本語教育という部分での英語教育の大切さももちろんそうなんだけど、外国から来た子どもたちを受け入れるという意味ではまた、それなりの、そんな大きく構えたものじゃなくても、今おっしゃっているようにこういうことをしましたといういろんな事例がありますよね。そういうのを一つの形にしてもらって、先生方が安心して学校教育でも使えるようにできる、そういうちょっとしたものがあるといいのかなど。</p>
下條委員	<p>文科省は2019年3月に「外国人児童生徒受入れの手引き」という冊子を出しております、それにはあるんですけど、多分こちらに機関とか、そういう受け入れる場所はまだ豊見城は整備できていないと思うので、確かに先生方が不安かもしれないですね。全部の小中学校にいますよね。外国にルーツを持つ先生も、今豊見城……。</p>
宮城委員	<p>すみません。ということで情報を共有しながら、そういうちょっとしたのが豊見城市の教育委員会にもあると、今後またいい形としてつながるかなというふうに思ったので情報共有させていただきました。すみません、ありがとうございます。</p>

教育長	<p>ありがとうございます。そのほか大丈夫でしょうか。</p> <p>それでは次回の定例教育委員会の日程について事務局、説明をお願いします。</p>
	(その他報告 反訳なし)
教育長	<p>それでは、これもちまして第1回定例教育委員会の全日程を終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。</p>

(署名欄)

教育長 瀬長盛光

教育委員 宮城伸子